

日高市公共施設再編・最適化の 検討に関する市民ワークショップ

報 告 書



平成 30 年 1 月

Re-Innovation

～みんなで作ろうよ 未来にひらかれた里とまち～



■地域について

- ・自然との関わり、人との関わりが強く、里のくらしが残っている。
- ・誰もが交流できるコミュニティがある地域である。

■大切にしたいこと

- ・既存の施設を活用—Re Innovation—し、現在のニーズに対応した施設へ。
- ・「わたしたちのまち、わたしたちで」 住民が関わり、動いて、盛り上げていきたい。

■地域への想い

里のコミュニティが残るいいまちだから、様々な活動がある。それをやりたい人たちが実行しやすい場と仕組みをきちんとつくって、観光も含めた大きな交流の場として、みんなでもっと良い場にしていきたい。

歴史あるこの地域で、これまでいくつもの変遷を経てきたが、21世紀にさらによくしていこうということで、「リノベーション」というキャッチコピーとした。

公共施設の再編・最適化の基本方針

◆施設数が減っても、子どもたちの可能性・選択肢を奪わないこと

地区内で小中一貫校に統合する場合は、学区をオープンにして、子どもたちに選択肢があるようにしてあげたい。小中一貫校や中学校の統合により、生徒一人一人のケアや、後回しにされてしまいがちな専門科目等の質が上がるのであれば、推進すべきである。子どもたちの可能性を奪ってしまうような公共サービスであってはならない。

◆プールは市に一つ、子どもも大人も使えるよいものを

学校プールは夏しか利用ができず、市民プールは利用者が減少している。小中学校のプールおよび現行の市民プールを廃止し、一年中使える屋内温水プールを設置することで、市内12箇所の学校プールの維持管理費を削減することが可能である。小中学生は一年を通してローテーションでプール授業を行い、また大人も利用可能な快適で便利なプールが市内に一つあればよい。

◆「見たら帰る」で終わらない観光に 今ある資源を活用して発展

高麗地域は観光資源が豊富でありながら、「体験」の場、「交流」の場が乏しい。宿泊施設も少ないため、既存の公共施設や空家、空施設を活用して、拠点を作っていききたい。そのための仕組みづくりも必要である。住民も観光客も、いっしょに地域をつくっていけるような観光地にしたいという想いがある。

行き交う人の玄関口

～日高市民のコミュニティの中心～



■地域について

・施設数が多く便利な地域、やはり高麗川駅が街の玄関！

■大切にしたいこと

- ・高麗川の施設を、高麗地域や高萩地域の人たちもアクセスできること
- ・地域をつなぐ体制(コミュニティバス等)

■地域への思い

高麗川駅というところは、川越線、八高線の起点であり、大学や高校などのバスも駅前から出ているので、高麗川は玄関口であると考えている。いろんな地域から人が一番集まってくるところ、そういう意味でまずは公共交通のアクセスを何とかするべきである。

公共施設の再編・最適化の基本方針

◆移動手段を確保し、誰もがアクセスできる公共施設へ

市に一つしかないサービスに関しては、コミュニティバスの活用など、市民の移動手段の確保や高齢者など人の移動も含めて考慮した施策が重要である。施設へのアクセス手段は、施設の再編や最適化と切り離せない重要な視点である。

◆民間と連携し、より便利で使いやすい施設運営を

子育て支援施設は、民間と連携した運営にすることで、より便利なサービスを受けることができるのではないかと考える。施設によっては官民連携の意見が大きく分かれるため、施設ごと機能ごとにさらに検討を重ねる必要がある。突然の廃止や不祥事防止等を考慮して、【補助金】⇔【監査】の関係を築いて、行政の監視が入る形が良いのではないかと考える。

◆「見たら帰る」では終わらない観光に 今ある資源を活用して発展

小中学校をどうするかという議論もあったが、昔から50年、60年と住んでいる方と5年、10年くらい住んでいる方との間で考えの違いがあった。街に住んでいる年数によって考え方が違ってくるといふ点から、地区別・居住年数別等詳細に意見を集める必要があると考える。

子どもからお年寄りまで 住みよいまちづくり

～「運営の工夫」「情報・交通アクセス」
「周辺環境の向上」を強化する！～



■地域について

・施設数が多く、便利な地域である。

■大切にしたいこと

・良いものはたくさんあるけれど・・・集まっているのにもったいない！もっと施設を活かしたい！

・みんなが幸せになれるまち。

子どもや若者が増えて、「日高市はいいところだよ～」と発信できる街にしたい！

■地域への想い

高麗川地域には、ひだかアリーナや生涯学習センターなど、沢山の施設が集まっている。せっかくあるのに、地区外、地域外からアクセスする足がない。コミュニティバスなどにより、3つの地域を回り、市民みんなが使いやすい施設になってほしい。また、そのようなサービスを行うにしても、情報を知らない人が多いので、情報のアクセス方法等、広報を工夫をすれば、みんなが住みやすいまちになると考える。

公共施設の再編・最適化の基本方針

◆公民館等の各地区にある施設を活用し、様々な機能を集約

自分の地区に必要な施設については、大きな施設の中に様々な機能が集約されているとよい。教育施設や子育て支援施設は小中学校に集約し、隣接して公民館・出張所があれば、手続き等も簡易的に済んでよい。各地区にそのような拠点があると便利だと考える。

◆だれでも施設、機能にアクセスできること

公共施設を巡回する交通手段があれば、施設同士が離れていても利用は可能である。民間と連携したコミュニティバスの運行などが考えられるのではないか。

◆機能集約により、容易な情報アクセスを可能にし、人が集まる場に

保育所や児童室等の機能を集約するとともに、生涯学習センターや図書館についても併せて考え、またイベント等の情報を伝えていくことで、さらに便利で人が集まる場となるのではないか。また、児童向け施設だけでなく、高齢者向け施設とつなげていくことでコミュニティの場となる。既に市内ではお年寄りだけでなく、子どもたちや障がい者が集う施設としての新たな取り組みが進められている。地域住民の良いコミュニティ空間であるが、今後は離れた地域のかたにも使ってもらえるように、情報発信を強化するべきである。

つながる機能・仕組みを 公共施設につくり、人があたたかい 日高市を育み続ける



■地域について

- ・公共施設が少ない地域である。
- ・そのため、公共施設は隣接市の施設を利用することもある。

■大切にしたいこと

- ・「つながる機能を公共施設に」というのが一番大切であり、集まる習慣、そこに行けば安心であるという場所づくりを続けることが大事。
- ・徒歩圏内にみんなが集まり、いきいきと暮らせる交流拠点が必要。

■地域への思い

地域内でみんなが集まり、いきいきと暮らせる場所があるということはとても大事。施設が少ない高萩地域では、公会堂に期待するところが大きい。既存の施設を活用し、公会堂と連携しながら交流ができるようにすればよいという議論から、具体的にどのような利用をし、どのような場所になってほしいかについて考えた。

公共施設の再編・最適化の基本方針

◆子どもやお年寄りでも利用できる、徒歩圏内に拠点があること

高萩地域は公共施設の数が少ない地域であり、これからも増やしていくのは難しいと考えている。公共施設の再編・最適化を進めていく中で、地域内にある公民館や公会堂に窓口機能が追加されたり、享受できるサービスが増えれば便利になる。子どもやお年寄りなど、車によるアクセスができない人でも徒歩圏内でサービスを受けられることが重要である。施設を増やさずに、既存のものを工夫して使っていきたい。

◆既存施設を柔軟に使えるような仕組みの検討

公民館や公会堂の多目的利用の可能性が広がればよいが、現状の公会堂ではいろいろな難点があり、畳があつて床がないと高齢者だと利用しづらいという点や、常に戸が閉められていて使い方がわからない、いつも人がいない等の問題がある。防災的な観点からも、身近な所に集まれる場所があり、みんながそこに行けば安心という拠点がほしい。使いやすい仕組みと、そこへ集まるという習慣を作らないといけない。

◆「そこに行けば安心」という場所づくりを続けること

なにかをやりたい人がいて、それを実現できる仕組みがあつたら、今度はそれを継続して定期的に人が集まる場所にしていかなければならない。小さなイベントでも継続すれば、その準備の集まりが定期的にあつたり、イベントの日にはコミュニティができる。ボランティアでは続かないのであれば、新しい建物を建てない分、人にお金をかけることができるのではないか。大きい施設の活用はもちろんだが、地元にある小さな施設から人がつながる仕組みというのをしっかり作って、人があたたかい日高市になればいい。

ワークショップの概要

◆ワークショップの目的

本ワークショップは、日高市公共施設等総合管理計画に基づき、公共施設を取り巻く現状や課題について共通認識を持ったうえで、将来を見据えた公共施設の最適化を進めるための再編に向けた基本方針を検討するものである。

◆検討の流れ

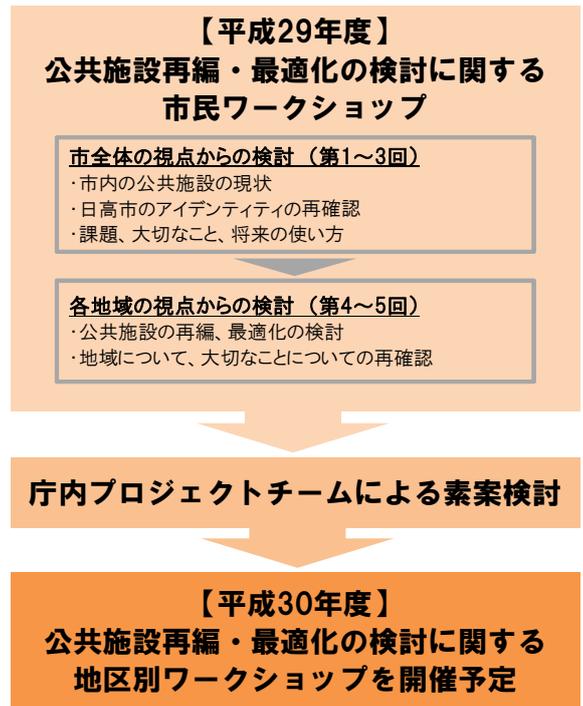
ワークショップの冒頭では、日高市のアイデンティティを確認するとともに、市内の公共施設の現状について共有を行った。日高市が目指すべき将来像に対し、求める公共施設がどのようなものなのかを整理し、ニーズや運用方法について検討を行った。第1～3回のワークショップでは、参加者の居住地を問わず、市全体の視点からの意見出しを行ったが、第4～5回では、居住地域毎の班編成（高麗、高麗川①、高麗川②、高萩）とし、実際の生活に基づいた、地域の視点からの検討を行った。

◆検討結果

ワークショップにて挙げた意見のとりまとめについては、第1～3回に行った市全体の視点からの検討結果を1枚にとりまとめ、第4～5回に行った地域毎の検討は、別途4つの班ごとに1枚ずつ、計4枚の成果ポスターを作成した。

◆今後の展望

ワークショップにて検討した結果は、今後進めていく公共施設の再編および最適化において参考活用される。今年度は、再編および最適化を進める上で大切にすべき点の確認や、基本方針についての検討を主として行った。来年度は、ワークショップを地域毎に開催し、各施設について詳細に検討を行う予定である。



各回の実施内容

| 居住地域問わず、地域混合の班にて検討を実施 | |
|-----------------------|---|
| 第1回 |  <ul style="list-style-type: none"> ■開催日時 平成29年5月31日（水） ■参加者 21名 ■第1回のテーマ 公共施設について再確認しよう ■実施内容 <ul style="list-style-type: none"> ・公共施設への想いを、イラストで表現しよう！ ・公共施設の再確認 ⇒よいところ、気になるところを付箋に記録 |
| 第2回 |  <ul style="list-style-type: none"> ■開催日時 平成29年7月12日（水） ■参加者 25名 ■第2回のテーマ 公共施設のあり方(つかい方)を考える ■実施内容 <ul style="list-style-type: none"> ・第一回で挙げたキーワードの掘り下げ ・キーワードについて、「課題」「大切なこと」「将来の使い方」の意見出し |

第3回



■開催日時 平成29年8月29日(火)
■参加者 23名
■第3回のテーマ
公共施設の再編・最適化について考えよう①
■実施内容

- ・施設見学会(ワークショップ前に実施。希望者のみ。)
- ・マトリクス図を用いた施設毎の検討
⇒民間と連携した運営や、施設の配置について検討

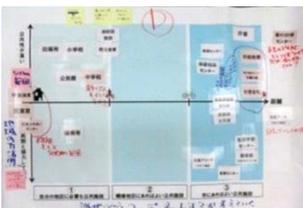
第1～3回 検討結果のとりまとめ



○施設の課題と日高市の将来像
 ○施設に対する住民のニーズ
 ○利用、配置についての全体的な方針

地域毎(高麗、高麗川、高萩)の班にて検討を実施

第4回



■開催日時 平成29年10月4日(水)
■参加者 20名
■第4回のテーマ
公共施設の再編・最適化について考えよう②
■実施内容

- ・マトリクス図を用いた施設毎の検討(各地域の視点から)
- ・前回意見が分かれた施設について、さらに検討

第5回



■開催日時 平成29年12月6日(水)
■参加者 19名
■第5回のテーマ
ワークショップ成果をまとめよう
■実施内容

- ・地域について、大切なことの再確認
- ・検討結果のとりまとめ

第4～5回 検討結果のとりまとめ



○地域への思い
 ○大切にしたいこと
 ○地域の視点から、各施設への具体的な意見

Aグループ

【あらゆる世代が支え合い交流する公共施設】

- ・結婚、出産、子育て支援を3本軸に考える
- ・「子育ては日高で」を定評にする
- ・自然環境を活かした、柔軟に利用できる子育て施設をつくる
- ・6地区の公共施設は孤立的な運用であり、ネットワークづくりが必要

【多様な主体が参画できる公共施設】

- ・施設、行政、企業が連動・提携
- ・施設管理者、施設利用者、地域住民の3者が継続した協議会を発足
- ・利用者と管理者が話し合える場の設定

【日高が潤う観光施設をつくり、育む】

- ・観光客からの収益向上で雇用を創出
- ・ビジターセンターを設立する
- ・エリア全体をエコパーク化する
- ・時代に沿ったイベントをつくっていく

【使いやすく、非常時でも利用できる施設】

- ・誰もが使える、車いすでも使える施設
- ・災害時のサポートセンター

Bグループ

【コミュニティの中心となる公共施設】

- ・誰でも安心して利用できる施設にする
- ・高齢者の安否確認、地域住民が知り合う機会をサポートできる施設にする
- ・赤ちゃんからお年寄りまで、いつでも利用できる施設にする(子育て支援やシニアサロン)
- ・身近な施設である公会堂、自治会館を誰でも利用できるように

【まちづくりの視点で公共施設を考えることが必要】

- ・再編、最適化を進めるには住民の理解が不可欠
- ・各地区のネットワーク化を図ることを前提に、一大公共施設の集合地があってもよい
- ・将来を見据えると維持費の縮減は不可欠、統合も視野に入れるべき

【地域の特徴を活かした公共施設】

- ・小中学校、保育所は地区ごとに縦で一体化が可能であるが、地区での統合(横の一体化)は抵抗が大きい
- ・各地域ごとの公共施設格差が存在する
- ・利用者による施設規模の再考は必要
- ・高麗、武蔵台の小中学校空き教室の活用
- ・グラウンドやプールなど重複施設の統合

再編・最適化のため考え方(及び、

① 行政系施設【庁舎・出張所】、【消防・防災施設】

② 学校教育系施設【小学校】、【中学校】、【教育センター】、【給食センター】

③ 子育て支援施設

④ 保健福祉施設

⑤ 市民文化系施設

⑥ スポーツ・レクリエーション施設

⑦ 公営住宅

⑧ 産業系施設

⑨ 供給処理施設

⑩ その他

- ・地域内で地区を
- ・学童・相談機能
- ・小学校は6地区
- ・保育所は毎日使
- また、学童保育
- ・学童を保育所、
- ・保健福祉施設は
- ・共働き家庭が増
- ・公民館はコミュ
- ・テレビ会議がで
- ・地区に作れない
- ・市民プールは小
- ・スポーツ施設は
- ・市営住宅は行政
- 民間企業をうま
- ・市の持ち物では

Cグループ

【日高が潤う観光施設をつくり、育む】

- ・売上を出すことで更なる発展を図る
- ・日高市を中継拠点に
- ・リピーターの確保
- ・移住者の増加(魅力)
- ・高麗古民家と民族資料館の統合

【情報格差の解消が必要】

- ・年代別にやり方、紹介方法をかえる
- ・施設の使い方、案内(動画提供)
- ・公共施設の位置図と紹介案内をつくる
- ・IT革命が進めば公民館の統一、コンパクトに！
- ・スマホで公民館予約ができるように
- ・避難場所間の情報交換

【行政サービスの在り方】

- ・行政のやることに対して住民が協力すること
- ・行政もサービス精神を！
- ・(図書館など)各施設とのネットワーク化
- ・地区毎に小さな拠点づくりを
- ・大切な施設はつくるべき
- ・社会基盤はもうよい(市の支出を少なく)
- ・教育できる施設、ソフトを！
- ・夜間緊急対応、移送サービス

Dグループ

【日高が潤う観光施設つくり】

- ・観光資源のブランディング化(景観は宝もの)
- ・遠足の聖地をさらに進める
- ・巾着田への来訪者が日高で買い物をするなど、稼げる施設にする
- ・BBQを資源と考え、企業と連携して進める
- ・歴史観光、歴史公園、休憩所の新設など

【地域の特徴を活かした公共施設】

- ・自分たちのアイデンティティを知ることが大切
- ・市内を3ヶ所に分けて、集中と選択
- ・小中公民館の地域別統合
- ・空き教室又は公民館を多様化
- ・日高市が先進事例となるような、自動運転の巡回バスの活用

【情報の可視化】

- ・施設の利用状況や人口動向、交通、地形等
- ・住民同士がネットでつながる環境

【新規利用と再利用】

- ・施設の再利用は、地球にもお金にもエコ
- ・公民連携と、市内企業の増加
- ・ソフトにダウサイジング

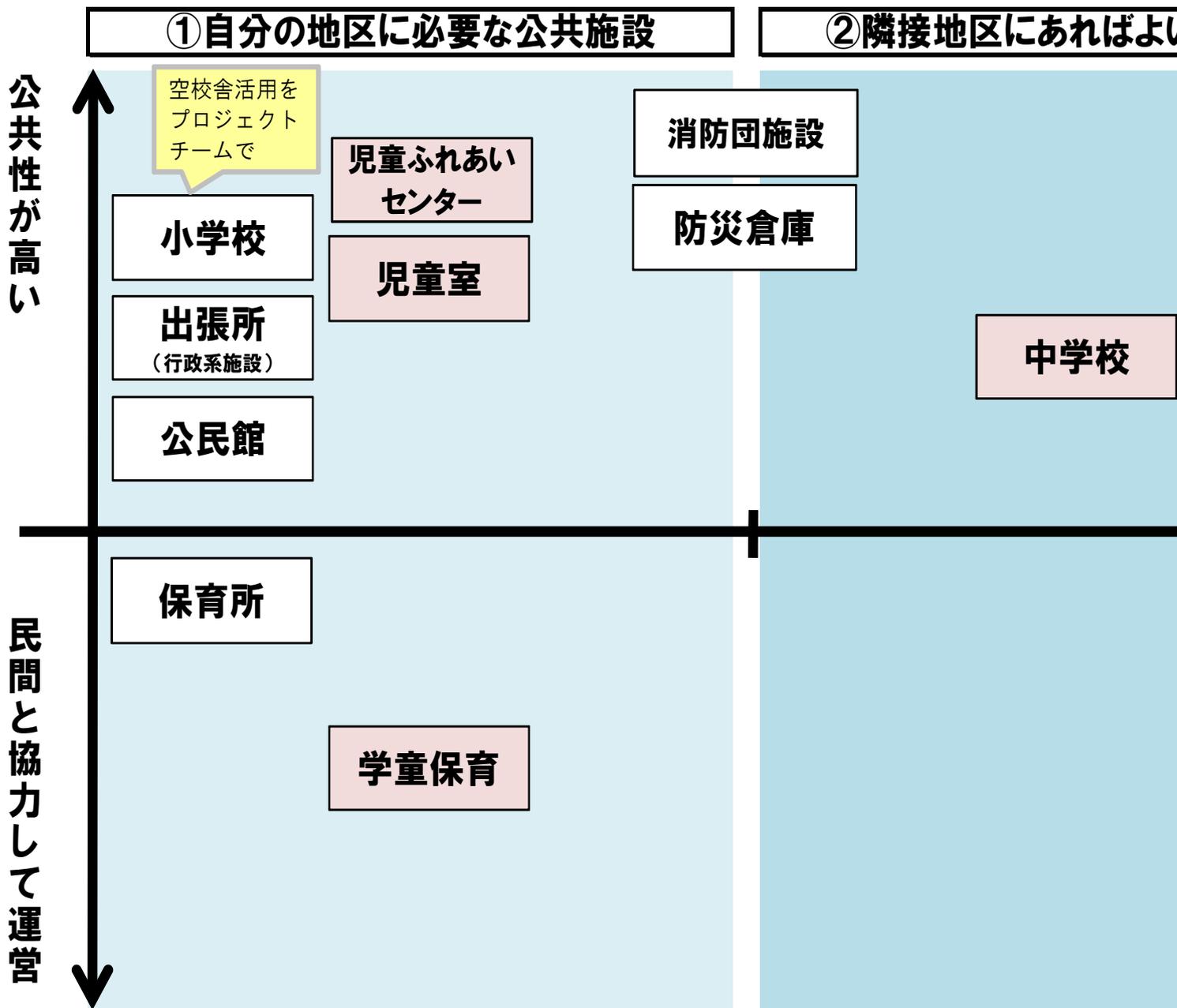
その理由)、または具体的な提案

またいだ統合・連携は可能だが、地域をまたいだ統合は難しい。
を併設するなど、教育施設数を減らす。小学校を多機能施設にする。
に必要だが、中学校は統廃合を行い、近隣地区にあればよい。中学生は自転車通学が可能である。
う施設だから、自分の居住地区内の利便性のよい場所にほしい。
室や児童ふれあいセンターと併設。
もしくは小学校に併設する。機能は各地区に必要、近くにあることが大事。
市にひとつあれば良いが、テレビ会議ができるようにして、窓口は公民館や出張所に設置したい。
える中、柔軟な利用のためには、場合によっては民間の力を借りる必要がある。
ニティの基本であり、今後も6地区に一つ必要な拠点である。
きるようにして、遠方施設と結び、公民館や出張所でも、福祉や子育ての相談ができるようにしたい。
施設は、機能をつなげばよい。
中学校のプールをうまく活用する方法もある。将来的な活用は難しいのではないか。
現状のままでも良いが、地域広域連携での施設の在り方を考えても良いのではないか。
の基本機能であり、公共性が高いが、箱物で持つ必要はない。
く使い、補助金などのサービスに移行すればよい。
ないが、自治会館との連携でもっと便利になると考える。

Re-Innovation

～みんなで作ろうよ

未来にひらかれた里とまち～

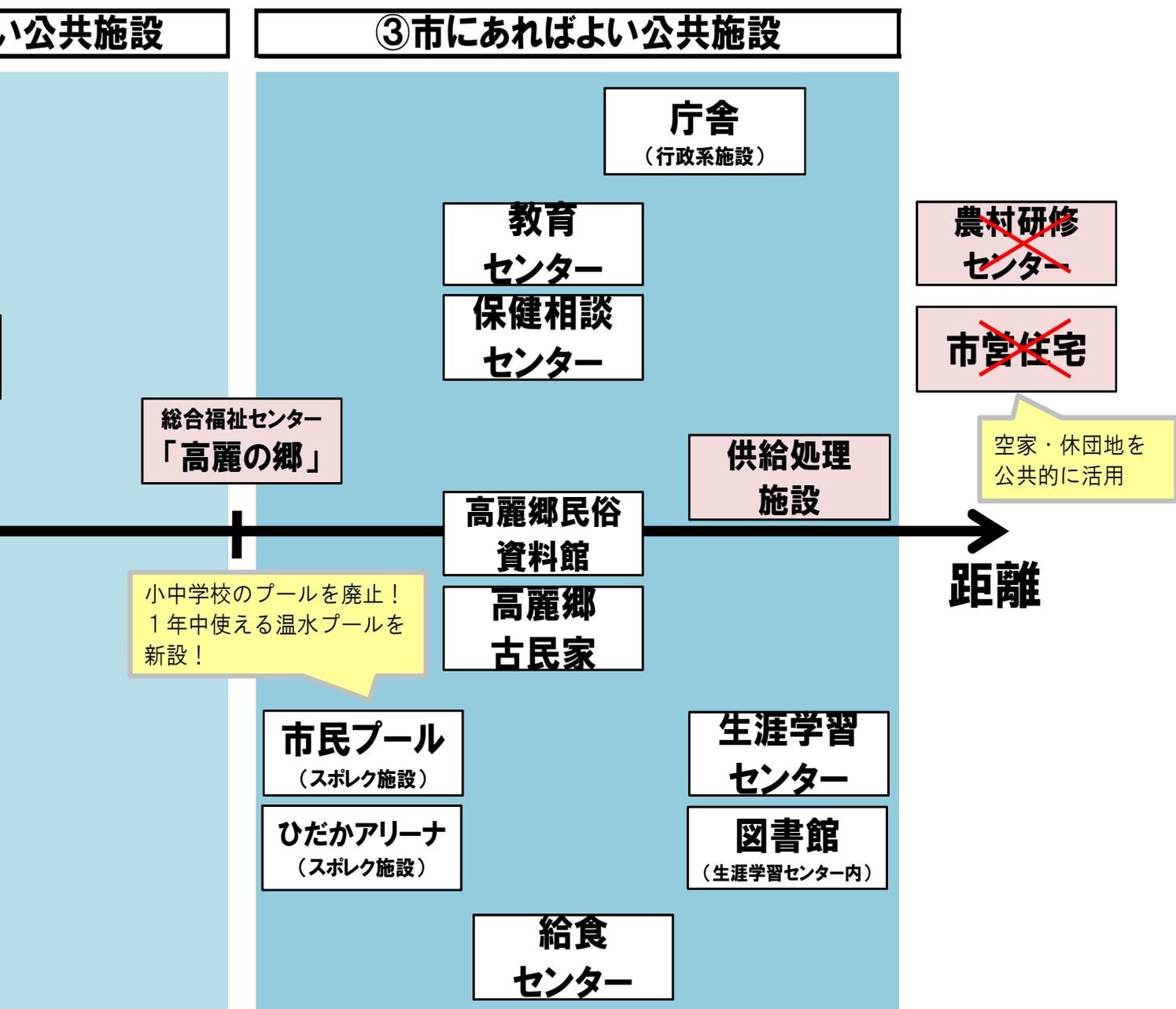


■地域について

- ・自然との関わり、人との関わりが強く、里のくらしが残っている。
- ・誰もが交流できるコミュニティがある地域

■大切にしたいこと

- ・既存の施設を活用 -Re Innovation- し、現在のニーズに対応した施設へ。
- ・「わたしたちのまち、わたしたちで」住民が関わり、動いて、盛り上げていきたい。



地区(地域)に必要な施設

小学校

- 高麗小学校は公民館と近く、地区の中心的拠点である。
- 高麗小学校校舎は、巾着田や古民家からのアクセスがよいため、駐車場、道の駅、案内所等の観光拠点として、川遊び拠点として利用できる可能性がある。
- 武蔵台小学校の空き教室では、学童機能や、高齢者向けの介助教室がある。市内でこのような活用の輪を広げられるのではないか。

中学校

- 高麗地区で小中学校を統合するなら、建物が大きくて新しい中学校の校舎を利用するのが適切である。小学校と統合する場合、空き校舎を用いて新しい取り組みを行う際には、市民とともに考えるプロジェクトチームを立ち上げてはどうか。小学校が空き校舎になる場合、観光施設として好立地であり、様々な可能性が考えられる。
- 地区内で小中一貫校に統合する場合は、学区をオープンにして、子どもたちに選択肢があるようにしてあげたい。小中一貫校や中学校の統合により、生徒一人一人のケアや、後回しにされてしがいがちな専門科目等の質が上がるのであれば、推進すべき。子どもたちの可能性を奪ってしまうような公共サービスであってはならない。

学童

- 学童は、かつては利用者による運営であった。企業だけでなく、地域住民との連携も考えられる。
- 児童館を人があつまるところにするためにも、駐車場の整備が重要である。

公民館

- 公民館と小中学校の空き教室とで連携すれば、もっと柔軟な利用ができるのではないか。
- 高麗地区では、小学校と公民館が地区の中心地といえる。にぎわい創出拠点として、公共交通（主にバスルート）の路線の再検討が求められる。

市内に一つあればよい施設

児童室・児童ふれあいセンター

- 窓口機能が公民館や小学校に加われば便利である。

総合福祉センター 高麗の郷

- 運営形態はよいと思うので、サービスがもっと民間的になると良い。

市民プール

- 学校プールは夏しか利用ができず、市民プールは利用者が減少している。小中学校のプールおよび現行の市民プールを廃止し、一年中使える屋内温水プールを設置することで、市内 12 箇所の学校プールの維持管理費を削減することが可能である。小中学生は一年を通してローテーションでプール授業を行い、また大人も利用可能なプールが市内に一つあればよいのではないか。

ひだかアリーナ

- アリーナでイベントがあっても、宿泊できる場所が無い。

市営住宅

- 市が所有する建物は残さずに、家賃補助等のソフトでの対応の方がよい。住む場所に困っている人も、他の人と同じ民間の住宅に住めた方が暮らしやすいのではないだろうか。

農村研修センター

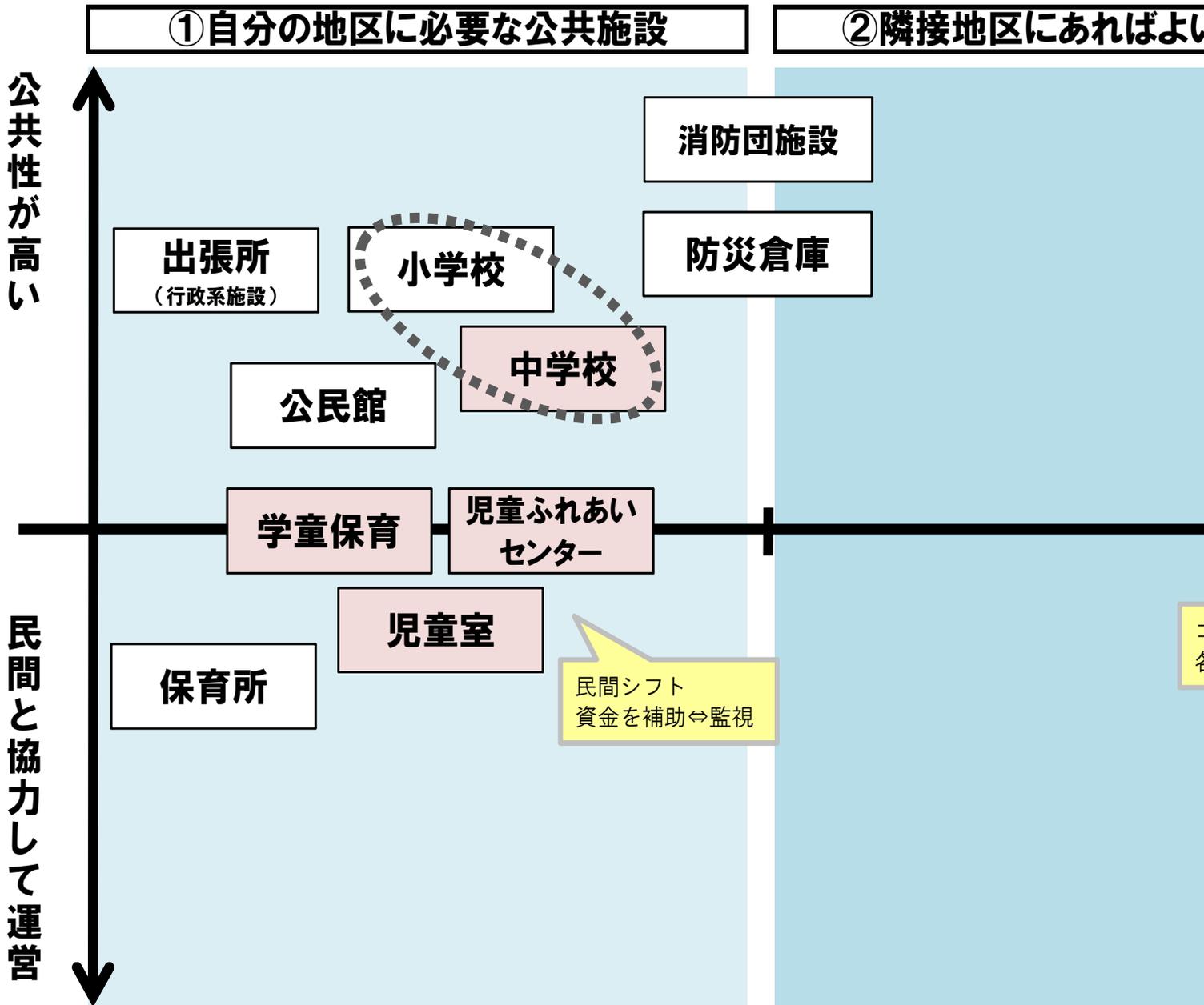
- 建物を廃止し、機能は市に1つあればよいので他の施設に機能移転する。

観光施設

- 高麗地域は観光資源が豊富でありながら、「体験」の場、「交流」の場が乏しい。宿泊施設も少ないため、既存の公共施設や空家、空施設を活用して、拠点を作っていきたい。そのための仕組みづくりも必要である。住民も観光客も、いっしょに地域をつくっていけるような観光地にしたいという思いがある。

行き交う人の玄関口

～日高市民のコミュニティの中心～



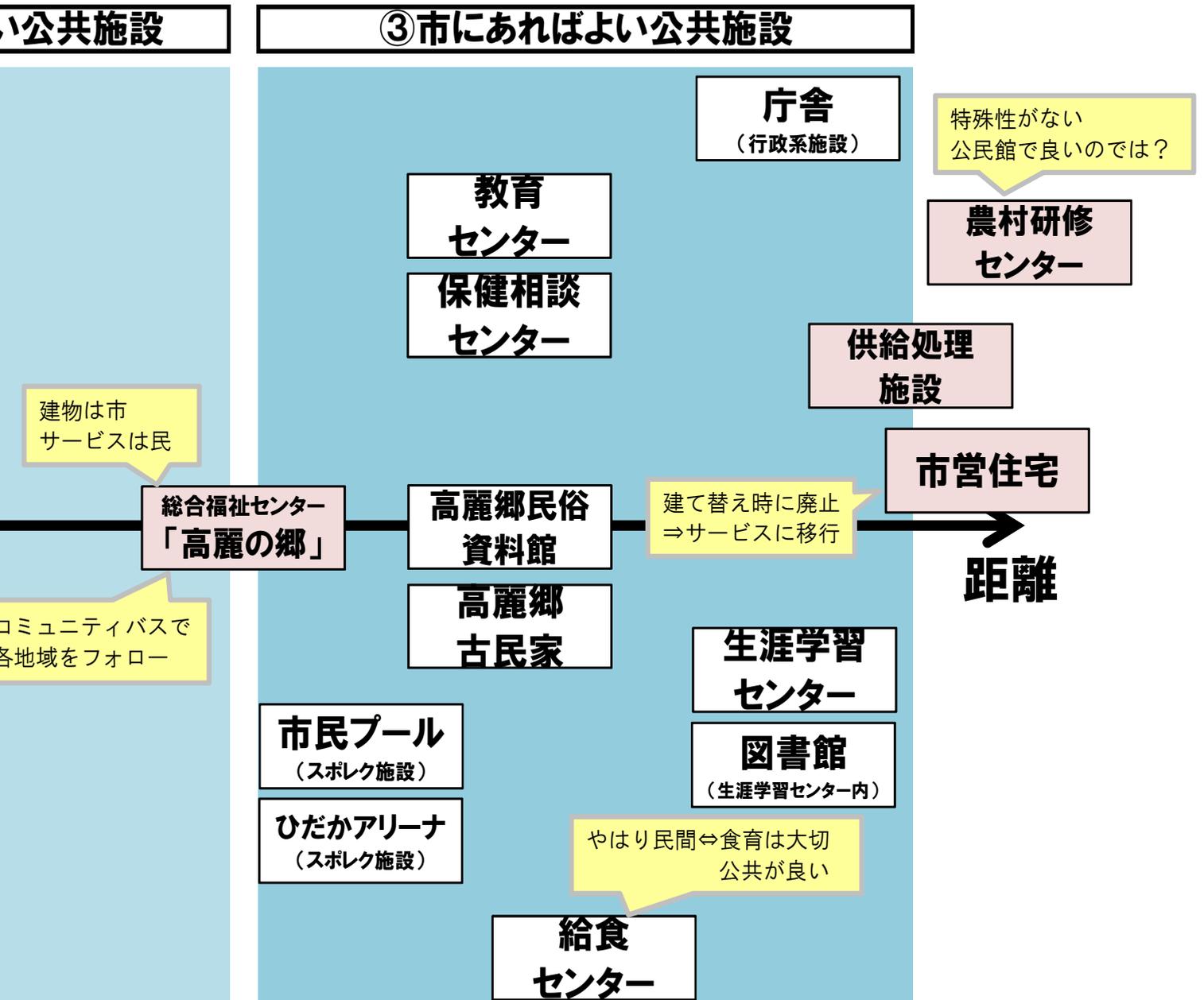
十 ～高麗川①地域の視点から～

■ 地域について

- ・ 施設数が多く便利な地域、やはり高麗川駅が街の玄関！

■ 大切にしたいこと

- ・ 高麗川の施設を、高麗や高萩地域の人たちもアクセスできること。
(コミュニティバスなどで地域をつなぐ)



地区(地域)に必要な施設

小学校 中学校

- 小中一貫校に関しては、高麗川地域で【2小学校・2中学校】→【1つの小中学校】or【2つの小中学校】といういずれかが望ましい。
- 隣接地区という表現は、高麗川地域内での話で、高麗地域や高萩地域と1つになるという再編の形はあり得ない。

保育所 学童 児童室 児童ふれあいセンター

- 子育て支援施設は、民間と連携した運営でもよい。但し、突然の廃止や不祥事防止等を考慮して、【補助金】⇔【監査】の関係を築いて、行政の監視が入る形が良いのではないか。

市内に一つあればよい施設

学校給食センター

- 食育や安全面から市による運営であるべきという意見と、民間によるサービスでよいという意見で分かれた。

保健相談センター

総合福祉センター 高麗の郷

- 総合福祉センターは、建物は市が所有し、サービスは民間による提供の現在の形で良い。
- 総合福祉センターという一つの建物で議論されているが、中に入っているサービスは4種類くらいあるので、建物で考えるのではなく、サービスで考えるべきではないか。
- 市に一つしかないサービスに関しては、コミュニティバスの活用など、市民の移動手段の確保や、高齢者など人の移動能力も含めて考慮した施策が重要であり、施設の再編や最適化と切り離せない重要な視点である。

市営住宅

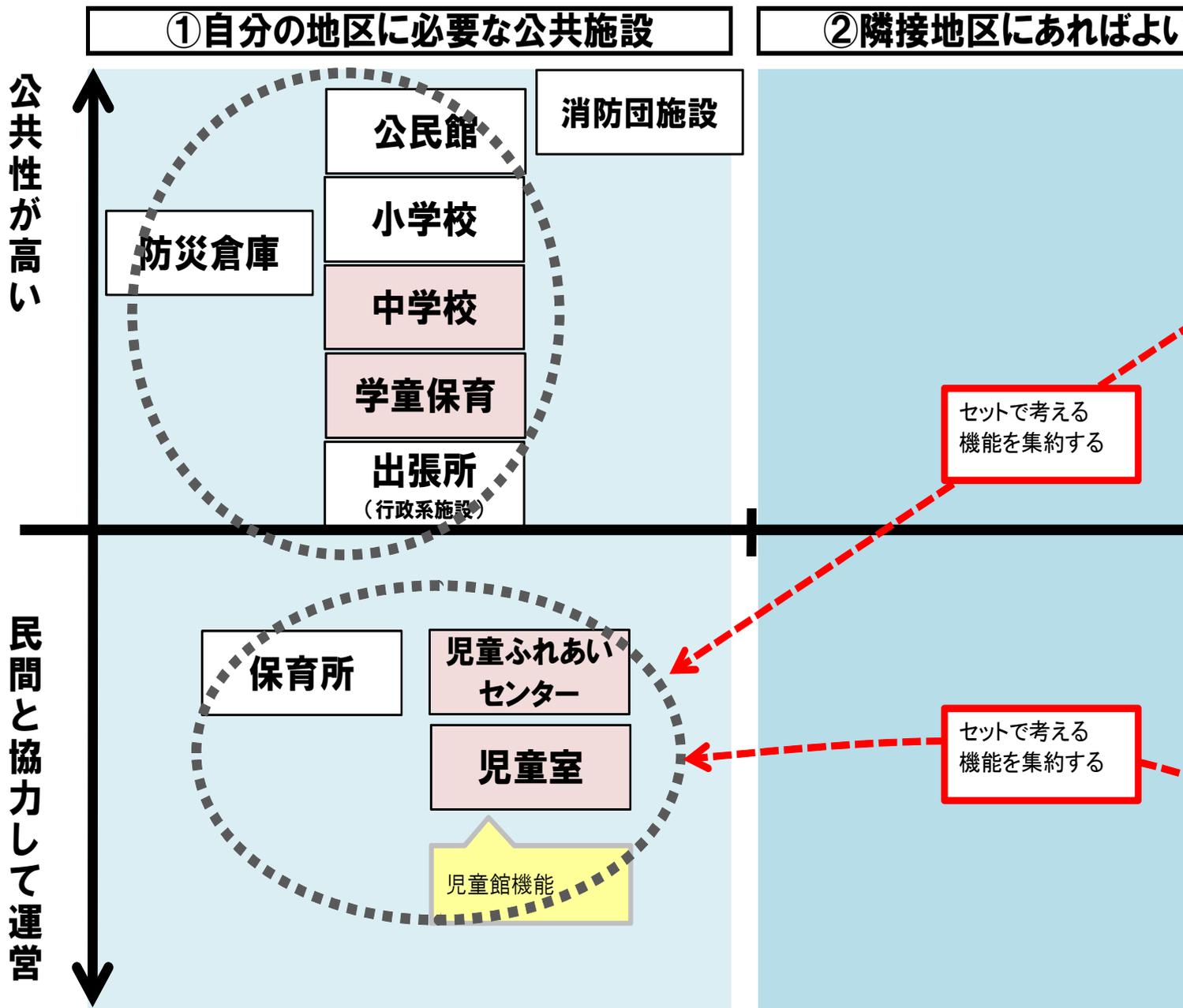
- 基本的に建物は不要であるが、入居者がいるので、すぐに廃止などは考えない。大規模改修が必要になるタイミングで、建替や改築などは行わずに、廃止とする。
- 建物の廃止の際には、民間所有の団地等と連携を図り、ソフト施策（補助金等）によりサービスは維持する。

農村研修センター

- 現状では、施設に農業研修としての特殊性が薄い。
- この施設でなければならぬ理由がなく、公民館で機能がカバーできるのであれば、建物は不要だと考える。

子どもからお年寄りまで 住みよいまちづくり

～「運営の工夫」「情報・交通アクセス」
「周辺環境の向上」を強化する！～



十 ～高麗川②地域の視点から～

■地域について

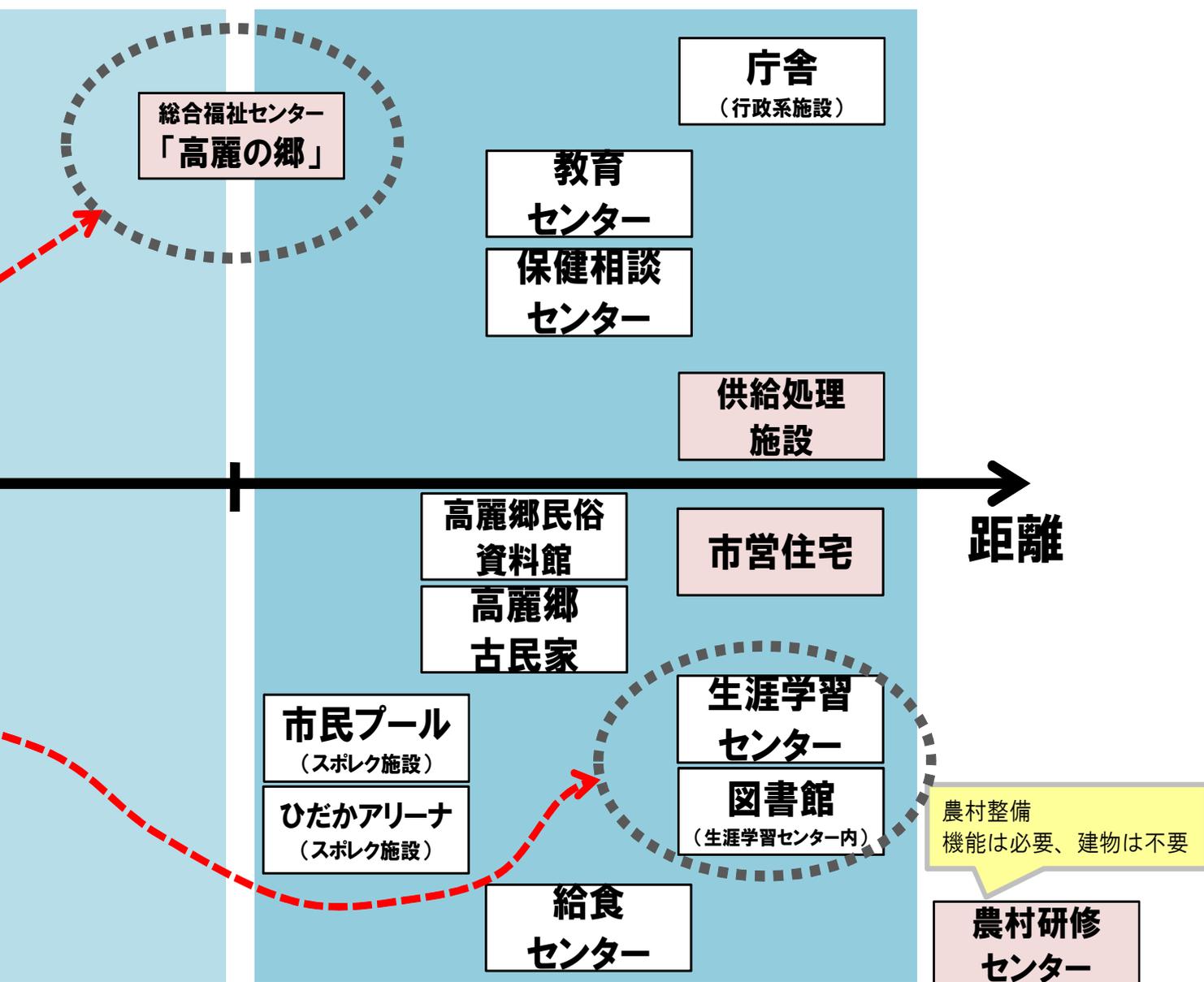
- ・施設数が多く、便利な地域である。

■大切にしたいこと

- ・良いものはたくさんあるけれど… 集まっているのにもったいない！
もっと施設を活かしたい！
- ・みんなが幸せになれるまち。子どもや若者が増えて、
日高市はいいところだよ～と発信できる街にしたい！

公共施設

③市にあればよい公共施設



地区(地域)に必要な施設

小学校 中学校

- 自分の地区に必要な施設については、大きな施設の中に様々な機能が集約されているとよい。教育施設や子育て支援施設は小中学校に集約し、隣接して公民館・出張所があれば、手続き等も簡易的に済んでよい。各地区にそのような拠点があると便利だと考える。

保育所 児童室 児童ふれあいセンター 生涯学習センター 図書館

- 保育所、児童ふれあいセンター、児童室の機能を複合化して、児童館のように子どもの遊び場機能が併せてあると、親子の居場所になる。
- 運営は民間に任せられるのではないか。
- 現状の児童ふれあいセンターは、車での利用が多いため、駐車場の十分な用意や、公共交通によるスムーズなアクセス手段が必要。
- 狭山市の児童館は、プラネタリウムや相談機能があり、また運営も民間によるもので手本となるのではないか。
- 児童福祉関係の施設と、生涯学習センターや図書館も一緒に考えたい。各施設を情報や運営等で繋げていきたい。

総合福祉センター 高麗の郷

- お年寄りだけでなく、子どもたちや障がい者が集う施設として新たな取り組みが進められている。地域住民の良いコミュニティー空間であるが、今後は高麗地域、高萩地域の住民にも使ってもらえるように、情報アピールを強化する。
- 保育所や児童施設等の機能を集約、もしくは情報で繋げていきたい。併せて考えていくべきである。

市内に一つあればよい施設

庁舎

- 公共施設を巡回する交通手段があれば、施設同士が離れていても利用は可能である。
- 民間と連携したコミュニティバスの運行

高麗郷民俗資料館

高麗郷古民家

- 民俗資料館と古民家は、古民家敷地内で統合し、民間による運営にする。

ひだかアリーナ

- ひだかアリーナのイベント規模を大きくするなど、もっと活用できる。現在は夜9時までしか利用ができず、制約が多いため、ルールの再考が必要。
- 施設規模が中途半端であるが、今の施設を最大限に活かせるように、運営上の工夫（夜間のコンサート開催等）をする。また、どんな使い方ができるのか情報提供が必要である。

総合運動公園

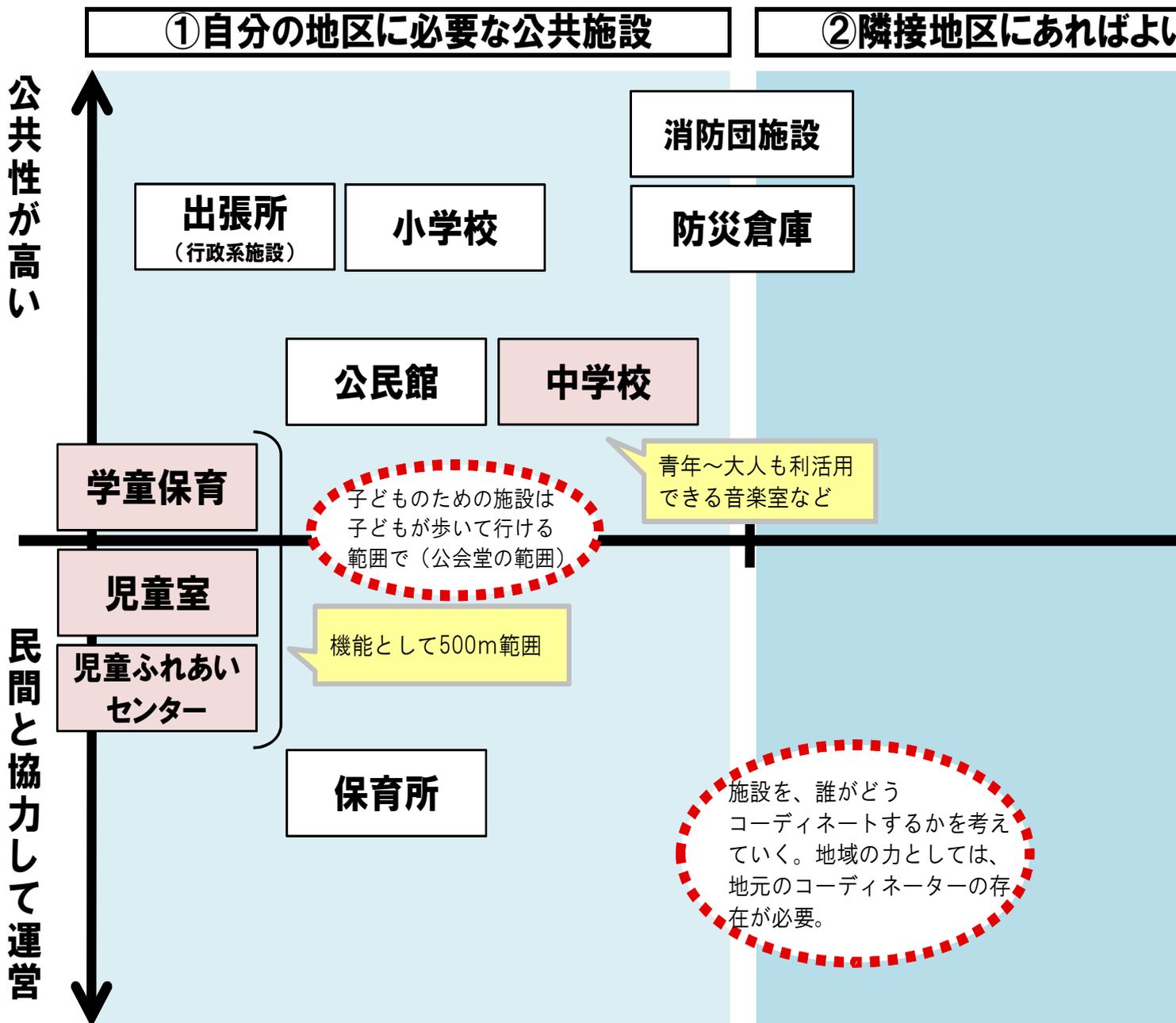
- 運営上の工夫をすることで、多くの人を呼び込む、利用者を増やす取り組みが必要である。

市営住宅

- 民間の空家を使うという流れもあるが、行政が関わることも大切である。管理は民間に任すなど、運営の工夫が必要。

つながる機能・仕組みを公共施設につくり、

人があたたかい日高市を育み続ける

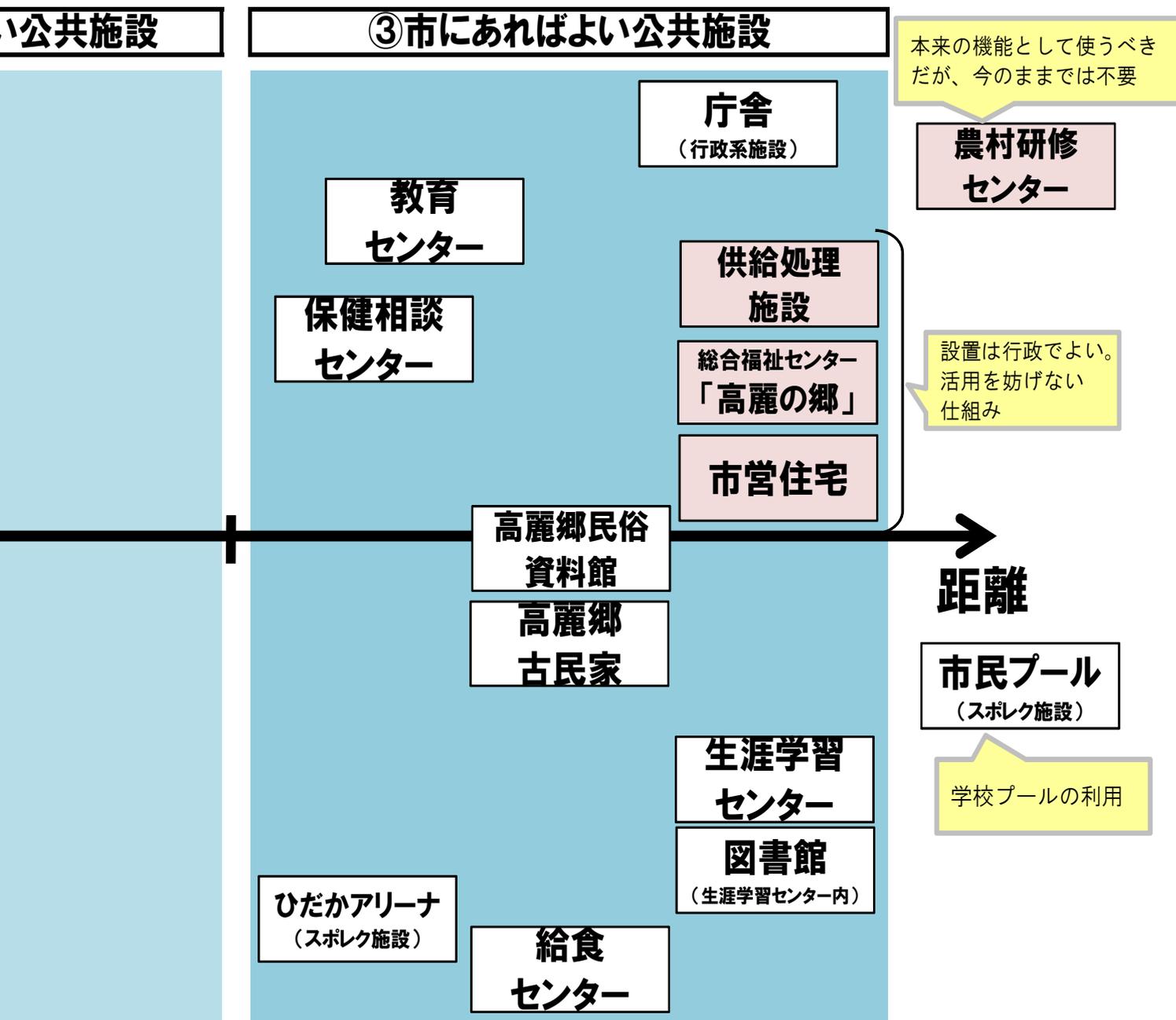


■地域について

- ・ 公共施設が少ない地域である。
- ・ そのため、公共施設は隣接市の施設を利用することもある。

■大切にしたいこと

- ・ 「つながる機能を公共施設に」というのが一番大切であり、集まる習慣、そこに行けば安心であるという場所づくりを続けることが大事。
- ・ 徒歩圏内にみんなが集まり、いきいきと暮らせる交流拠点が必要。



地区(地域)に必要な施設

庁舎 出張所 消防団施設 防災倉庫

- 基本機能としてハード面では現状維持すべきである。
- 公共施設は、コミュニティをつくっていく場所として意識し運営しなければ、宝の持ち腐れになってしまうため、「この場所で何かやってみたい」という気持ちを邪魔しないような運営の仕組みを検討していくことが必要であり、そのコーディネーターが特に重要である。

小学校 中学校

- 6地区への配置を基本とする。
- 中学校などの空き教室を公民館的に利用することを検討していくべき。
(青年から大人などが音楽室を趣味で利用するようなイメージ)

教育センター 学校給食センター

- 施設整備（ハード面）は、行政主導が基本である。
- 運用ソフト面では、その活動を妨げない仕組みが整えば官民は問わない。

保育所

- 施設整備（ハード面）は、行政主導が基本である。
- 運用ソフト面では、その活動を妨げない仕組みが整えば官民は問わない。

学童 児童室 児童ふれあいセンター

- 子どものための施設は歩いていける範囲にあるべきであり、子どもやお年寄りが気軽に移動できる距離はせいぜい500m程度であるため、既存の公会堂に機能を持たせられないか検討していくべき。
- 地域内でいきいきと、安全安心に暮らしていくためには、新しい建物が必要ではなく、既存施設を公共でも使えるような仕組みの検討をしていくべき。

公民館

- 地区の運動会主催・サークル活動などコミュニティ拠点であるが、当地区は居住地から公民館までの距離があるため、より身近にこの機能を満たせるよう公会堂の多目的利用を検討していくべき。
- ひとが集まる習慣をつくるための仕掛けづくりが重要（まずは目玉となる「白鳳」を呼ぶというアイディアがあったが、本当に呼ぶのであれば、芋煮会などで地域のおもてなしが必要となり、みんなが一日楽しく過ごせる）。

市民プール

- 老朽化している市民プールを廃止し、小中学校のプールを市民にも解放することを検討していくべき。

市内に一つあればよい施設

保健相談センター 総合福祉センター 高麗の郷

- 施設整備（ハード面）は、行政主導が基本である。
- 運用ソフト面では、その活動を妨げない仕組みが整えば官民は問わないが、仕組みづくりをどのようにコーディネートしていくかが大切である。
- 機能の一部を、地区内で享受できるような運用も検討していくべき。

生涯学習センター

- 近隣の自治体の施設を使っている現状もあるが、日高市全体のコミュニティ拠点となるような施設も必要であり、その機能の一部が地区内で享受できるようになればさらによい。
- 運用ソフト面では、その活動を妨げない仕組みが整えば官民は問わないが、仕組みづくりをどのようにコーディネートしていくかが大切である。

高麗郷民俗資料館 高麗郷古民家

- 施設整備（ハード面）は、行政主導が基本である。
- 運用ソフト面では、その活動を妨げない仕組みが整えば官民は問わないが、仕組みづくりをどのようにコーディネートしていくかが大切である。機能の一部を、地区内で享受できるような運用も検討していくべき。

ひだかアリーナ

- 近隣の自治体の施設を使っている状況があるが、日高市全体のコミュニティ拠点となるような施設も必要である。
- 運用ソフト面では、その活動を妨げない仕組みが整えば官民は問わないが、仕組みづくりをどのようにコーディネートしていくかが大切である。

市営住宅

- 行政主導によるハード整備は、基本である。運用ソフト面では、その活動を妨げない仕組みが整えば官民は問わないが、その仕組みづくりをどのようにコーディネートしていくかが大切である。

農村研修センター

- 本来の機能（農に関するレクチャーの場）として活用され続けるのであればよいが、現状では存続の必要性は低い。

供給処理施設

- 施設整備（ハード面）は、行政主導が基本である。
- 運用ソフト面では、その活動を妨げない仕組みが整えば官民は問わないが、その仕組みづくりをどのようにコーディネートしていくかが大切である。

市民ワークショップ 参加者名簿（敬称略）

検討グループ（50音順）

■高麗地域

| | | |
|-------|-------|-------|
| 岩木 隆夫 | 黒木 一夫 | 鈴木 俊博 |
| 潮田 真也 | 齋藤 敏 | 津留 宏介 |
| 上條 洋子 | 鈴木 敏男 | |

■高麗川①地域

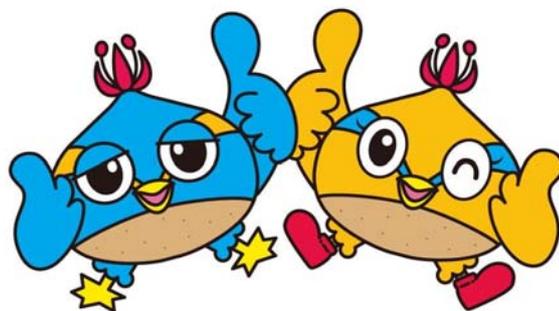
| | | |
|-------|--------|-------|
| 石井 康雄 | 中村 勝 | 横山 完爾 |
| 加藤 聡 | 谷ヶ崎 陽彩 | |
| 鈴木 輝雄 | 平田 保 | |

■高麗川②地域

| | | |
|-------|-------|------|
| 鈴木 稔 | 日野 恭子 | 船木 聡 |
| 関口 政信 | 廣瀬 圭 | 山口 順 |

■高萩地域

| | | |
|---------|-------|-------|
| 石川 隼人 | 平田 雅利 | 横手 則和 |
| 大河原 百合子 | 星 仁 | |



**日高市公共施設再編・最適化の検討に関する
市民ワークショップ 報告書**

発行日 平成30年1月
編集・発行 日高市 総合政策部 財政課
日高市大字南平沢 1020 番地
TEL:042-989-2111